

全佐渡納税貯蓄組合連合会長賞

失敗から命を守るために

佐渡市立前浜中学校 2年 津村 陸人

去年の冬、佐渡全域で大雪による停電、土砂崩れが発生しました。今までにないほど長期間の停電が各地で起きたため大きな被害を受けました。その影響もあり、私の地域では整備が間に合っていないところが多くあります。このような自然災害による被害は私が物や食べ物を買うときにかかる税でまかなわれています。税がないとどうなるのか。そんな言葉が頭をよぎりました。日本は台風、地震、大雪、火山噴火などが多い国です。その自然災害の中で最も多発している「地震」。日本では大きな被害を受けた地震が多く挙げられます。その一つとして2011年3月11日福島県沖で発生した東日本大震災が挙げられます。東日本大震災での被害額は1兆5千億円という信じられないほどの金額でした。しかし、福島県の歳入合計金額は1兆5千億円だったため到底足りるはずはありません。さらに1兆5千億円は地震発生直後の被害額だったため今日まで約40兆円以上の被害が出ています。国からの支援を受け、復興費はなんとかあったものの、あまりに大きすぎる被害だったため、「福島の復興が遅れている」と答えた福島の人々は半分もいることがわかりました。お金だけでは治せない気持ちの傷はたくさんあります。しかし、心の傷を負わせてしまったのは津波、地震だけではなく、福島第一原発での事故は誰もが予想できなかった事故です。今日も避難を余儀なくされている人や放射線によって病気になってしまった人が多くいます。このような失敗は今後、起こしてはいけないということから原子力規制が始まりました。しかし私は、これだけでなく津波による被害への迅速な対応、想定が原子力規制以上に大切だと思いました。それが私の地域で行われているのでしょうか。もし、海に囲まれている佐渡で地震が起き、津波がきたら福島県の失敗を活かし、迅速な対応ができるのでしょうか。私の家は昔、風浪という自然災害で大きな被害を受けました。そのため、家の前には波を防ぐための防波堤が作られています。このように災害がおきた福島県や家の前にはハザードマップ、避難タワー、防波堤などの対策がされていますが、過去に何も起きていない場所には特に何もされていないように感じます。起きてしまったからでは遅いのです。日本に住んでいる限り、いつどこで自然災害が起きてもおかしくないのです。税の使い道として防災に取り組む、それこそが人の命を守るため、失敗を無駄にしないことにおいて大切なことではないでしょうか。